



# 障がい、病気、年齢。 ファッションは壁を取り払い、 笑顔と可能性を引き出してくれます

「こんな思いやりのある服があるなんて知らなかった」。  
と言われ、続けていく意義があると思えました

——前野いずみさん(キアレッタ代表・クリエイティブディレクター・47歳)

前野さんが今の仕事をするきっかけとなったのはお母さんの五十肩。ある日、両肩が上がらないお母さんの部屋から、「チキシヨ〜」と言う声が聞こえました。「着ようとしていた服が背中であまり着られなくなりました。」「作り方で丸まってしまっていて。」「作り次第で着られるのにな」と思いました。高齢者の方との会話から、体型の変化や力の衰えは服でカバーできると確信し、「可愛いおばあちゃんを作りたい〜」という気持ちが芽生えたそう。

「一見、普通の服だけど、着脱に便利な服にこだわっています。例えば脳梗塞などになり退院時に介護服を準備され、服を着る楽しみさえ奪われたとすぐく落ち込む方はたくさんいるんです。服には気持ちを上げる魔法の力があると思うんです」。

心に残っているのは「息子の結婚式に、我慢し通しだった母にも参列してもらいたい」と販売会に来てくれた方の言葉。「こんな思いやりのある服があるなんて知らなかった。これで母にも胸を張って式に出席してもらえます」と涙ぐみながら、作り手の思いも受け止めて言ってくれた言葉に感動しました。今後も続けていくことに意義があると思えた、今も大切な瞬間です」。



前野さん(左)と山田利恵子さん。手にした写真は山田さんの叔母、荒深さん。荒深さんのキアレッタの服は、形見として山田さんに受け継がれています。<http://www.chiaretta-fashion.com/>